

アメリカ地質調査所（United States Geological Survey; USGS）は、アメリカ合衆国内務省の傘下にある研究機関である。1879年に設立され、水文学、生物学、地質学、地理学の4つの学問分野について、合衆国領内を中心に、自然景観、天然資源、および同国を脅かし得るナチュラル・ハザード（自然現象）を対象とする調査・研究を行っており、同国の地形図および地質図の作成業務も担当している。定期的に調査レポートを公開する。

<USGS レポート>

アメリカ及び世界のアンモニア生産と消費（2026）

2026年2月発表

2026年2月翻訳

一、アメリカ国内のアンモニア生産と消費

2025年、アメリカの国内メーカー18社は19州の38工場に於いてアンモニアを生産している。ほかに1工場は年間を通じてずっと休止状態にあり、稼働しなかった。国内アンモニア生産能力の約57%はルイジアナ州、オクラホマ州、テキサス州に集中している。その理由はこの3州にはアンモニアの主要原料である天然ガスが豊富に埋蔵されているからである。

2025年アメリカ国内アンモニアプラントの平均稼働率が約80%。アメリカは世界有数のアンモニア生産国と消費国の一つである。国内生産されたアンモニアは、その供給先の数量順に尿素、硝安、硝酸、りん安及び硫安の製造に使われている。

アメリカ国内に消費されたアンモニアの88%は肥料用途である。無水アンモニアはそのままの状態ですべて直接施用のほか、尿素、硝安、りん安およびその他のアンモニアを原料とする窒素肥料に使われている。また、アンモニアは爆薬、プラスチック、合成繊維および樹脂、その他の多種多様な化学品の製造にも使われている。

表1. アメリカのアンモニア生産量、輸入・輸出品、使用量などのデータ

項目	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年* ^e
生産量（万トン）* ¹	1,270	1,380	1,380	1,360	1,400
輸入量（万トン）	208	193	172	170	190
輸出品（万トン）	23.1	71.9	89	85.8	110
見かけの消費量（万トン）* ²	1,460	1,480	1,470	1,440	1,500
年末在庫量（万トン）	27	44	35	38.7	44
FOB 平均価格（ドル/トン）* ³	578	1,070	470	440	450
全産業の雇用数（人）* ^e	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600
消費量に占める輸入の割合（%）* ⁴	13	7	6	6	5

アンモニアのリサイクル：なし

アンモニアの輸入元（2021～2024年）：カナダ 49%、トリニダード・トバゴ 47%、その他の国 4%

輸入関税：	品目：	アンモニア	尿素	硫安	硝安
	税番：	2814.10.0000	3102.10.0000	3102.21.0000	3102.30.0000
	関税：	無税	無税	無税	無税

減耗控除制度：適用されない

政府備蓄：無し

二、 特記事項

2025年天然ガスのヘンリーハブ（Henry Hub）スポット価格は年間を通じて2.42～10.07ドル／百万英熱量の範囲に推移し、平均では約3.44ドル／百万英熱量であった。2025年の天然ガス価格は世界的な貿易混乱、作物の植え付け時期の短縮による国内需要の堅調さ、そして貿易政策の変更により、2024年よりも高くなった。なお、アメリカエネルギー省エネルギー情報局（EIA）は、2025年天然ガスのヘンリーハブスポット価格が平均で3.56ドル／百万英熱量、2026年には4.01ドル／百万英熱量に上昇すると予測している。

2025年初頭のメキシコ湾岸のアンモニア週平均価格は、490ドル／ショートトンであったが、6月下旬には357ドル／ショートトンに下落し、9月下旬に再び492ドル／ショートトンに上昇した。年間のアンモニア平均価格は約450ドル／ショートトンと推定される。

アメリカではトウモロコシの大量作付けにより窒素肥料の継続的な需要が維持されている。アメリカ農務省によれば、アメリカのトウモロコシ農家は、2025作物年度（2024年7月1日～2025年6月30日）に3,850万ヘクタールのトウモロコシを栽培し、2024作物年度より栽培面積が5%増加した。なお、トウモロコシの収益性がほかの作物より低いと予想されているため、輪作の影響もあり、2026作物年度のトウモロコシ作付け面積が若干減少するだろうと予測される。

世界のアンモニア生産能力は増加すると予想されている。アジア、東ヨーロッパ、北米など低コストの天然ガスが供給できる地域では新たな施設の開発が進められている。特に北米では、二酸化炭素回収やグリーン水素などの技術を活用した脱炭素化アンモニアプラントの建設が複数提案されている。ラテンアメリカと東アジアでは農業活動の拡大と食料需要の増加を背景に、肥料用のアンモニア消費量が増加した。

2025年10月、ある企業はトリニダード・トバゴのPoint Lisas工業団地にある窒素生産施設の計画的閉鎖を開始した。閉鎖の主な理由は、トリニダード・トバゴの国営エネルギー公社による港湾アクセス制限（操業と物流に支障）、および長期にわたる天然ガス供給問題である。この施設は、月間約85,000トンアンモニアと55,000トン尿素を生産していた。

ただし、施設の閉鎖にもかかわらず、同社は北米事業の好調な業績を活かし、2025年の窒素肥料販売目標である1,070万トンから1,120万トンを達成できると予想されている。トリニダード・トバゴにおける今後の事業展開については、現在も検討中である。

三、世界のアンモニア生産状況

世界各国のアンモニア生産量は表2に示す。

表2. 世界各国のアンモニア生産量（万トン）

国名	2024年	2025年* ^e
アメリカ	1,360	1,400
アルジェリア	200	200
オーストラリア	150	150
カナダ	380	380
中国	4,900	4,900
エジプト	390	400
ドイツ	222	200
インド	1,500	1,500
インドネシア	570	600
イラン	480	480
マレーシア	150	150
オランダ	210	200
ナイジェリア	200	200
オマーン	200	200
パキスタン	380	380
ポーランド	170	170
カタール	304	300
ロシア	1,500	1,500
サウジアラビア	520	520
トリニダード・トバゴ	335	330
ウズベキスタン	120	130
ベトナム	144	140
その他の国	1,220	1,200
世界合計	15,600	16,000

註：上記リストに載っているすべての国にとっては、大気中の窒素とアンモニア原料用の天然ガスの供給が十分満足されると考えられる。

世界資源量 *5： アンモニアは大気中の窒素を固定させるものであるため、大気中の窒素量が無尽蔵である。窒素の鉱物資源としてはチリのアタカマ砂漠で見られるような硝酸ナトリウムと硝酸カリウム鉱物（チリ硝石）があるものの、世界の窒素供給にはほとんど寄与していない。

代替品： 窒素は植物の必須栄養素であり、それに代わる代替品がない。また、窒素系爆薬や爆破材についても実用的な代替品は知られていない。

注釈：

*e：推定値

*1. 出典：アメリカ肥料研究所。アメリカ地質調査所が調整したデータ。

*2. 消費量 = 生産量 + 輸入量 - 輸出量 + 業界在庫変動量。

*3. 出典：グリーンマーケット。

*4. 消費量に占める輸入の割合 (%) = (輸入量 - 輸出量 + 業界の在庫変動量) ÷ 消費量。

*5. 資料およびデータソースなどに関する情報については、付録 C を参照してください。

米国地質調査所、鉱物商品の概要、2026年2月